

養父市 有機農業実施計画

1. 市区町村

養父市

2. 計画対象期間

令和5年度～令和9年度

3. 有機農業の現状と5年後に目指す目標

ア 有機農業の現状

養父市は、兵庫県北部の但馬地域の中央に位置し、山岳高原地帯など豊かな自然を有している。ブランド和牛「但馬牛」等の牛ふんから作られる良質な堆肥を用いた土づくりを軸として、大屋地域を中心に有機農業が盛んに行われている。有機JAS認証を16名の農業者が取得しており、その経営面積は15.5haで市内農地の約1.1%となっている。養父市における主な有機農業として以下の取組が挙げられる。

①おおや高原有機野菜

おおや高原は養父市大屋町の北部に位置し、「兵庫県営農地開発事業」により1978（昭和53）年から10年をかけて造成された高原農地で、標高500～700mの準高冷地に位置している。ここに1997（平成9）年「おおや高原有機野菜部会」を組織し、市、JA、シルバー人材センターが連携し、新規就農者を受け入れながら、産地を運営している。設立以来、コープこうべへの契約出荷となっており、現在9名の農業者が、雨除ハウス栽培によるほうれんそうを主体とした軟弱野菜等の有機栽培を行っている。冬期は積雪のため営農期間は4～12月であり、生産者は大屋全域から高原に通う「通勤農業」を行っている。

②おおや有機農業の学校

家庭菜園においても「保田ぼかし」を使った有機農業に取り組み、健康と生きがいのあるまちづくりを進めるため、2011（平成23）年4月に開校。有機農業の第一人者である保田茂氏や西村いつき氏等の講義を座学や農地で学ぶ。令和4年3月末で延べ439人の卒業生を輩出している。

③水稲作物の有機化

水稲においては、コウノトリとの共生を図るため環境に配慮したコウノトリ育む農法や、アイガモ農法による生産活動を一部の地域や農業者が実践している。

④但馬有機の会

養父市では有機農業を目指す新規就農者の割合が高く、既存の農産物以外でも新たな品目への挑戦や販路開拓を行っている。令和元年には、有機農業を実践する新規就農者の有志が共同出荷する「但馬有機の会」が発足しており、主にピーマンやナスを大手企業に出荷している。

⑤学校給食の有機農産物活用

環境へ配慮した農業の重要性や地域の食文化等を子どもたちへ伝えるため、新規就農者や子育て世代の方が中心となって有機農産物を学校給食で活用を求める気運が高まっている。

イ 5年後に目指す目標

①有機農業の面積拡大

令和3年度 15ha ⇒ 令和9年度 20ha

②有機農産物の販売量増加

令和3年度 84t ⇒ 令和9年度 110t

③有機農業に取り組む農業者数

令和3年度 16人 ⇒ 令和9年度 22人

4. 取組内容

ア 有機農業の生産段階の推進の取組

- ・有機農業の栽培・経営技術等を学ぶ研修会を開催

環境保全型農業に取り組む方を中心とした農業者向けに、有機農業の栽培技術や経営に関する知識の習得を目的にした研修会を開催し、有機農業に関する正しい知識の普及と理解の醸成を図ると共に、有機農業への転換を促進する。

- ・実践農業者からの指導体系を構築

有機農業を実践するための土づくりやほ場管理等を、有機農業者から直接指導を受ける体制づくりや有機農業に関するマニュアル等を作成し、有機転換者の初動期を支援する。

- ・慣行農業者と有機農業者の交流機会を創出
有機農業の実践者とこれから目指す人との意見交換や懇話会を開催し、農業者同士の情報共有、協力体制の強化を図る。

イ 有機農業で生産された農産物の流通、加工、消費等の取組

- ・有機農産物の消費を促進する講演会等の開催
市内の消費者や実需者を対象に、環境や食糧問題、食の安全等をテーマにした講演会や学習会を開催し、有機農業の価値と重要性の共通理解を深め、養父市産有機農産物の消費を促進する。

- ・販売促進、販路開拓支援

市内の直売所や小売店等と連携して有機農産物の特設コーナー設置や有機農産物の販売を含めたイベントの開催等により有機農産物の販売促進を図る。また、オーガニック EXPO 等の商談会への出展を通じて養父市産有機農産物の知名度向上を図る。

- ・他業種との連携

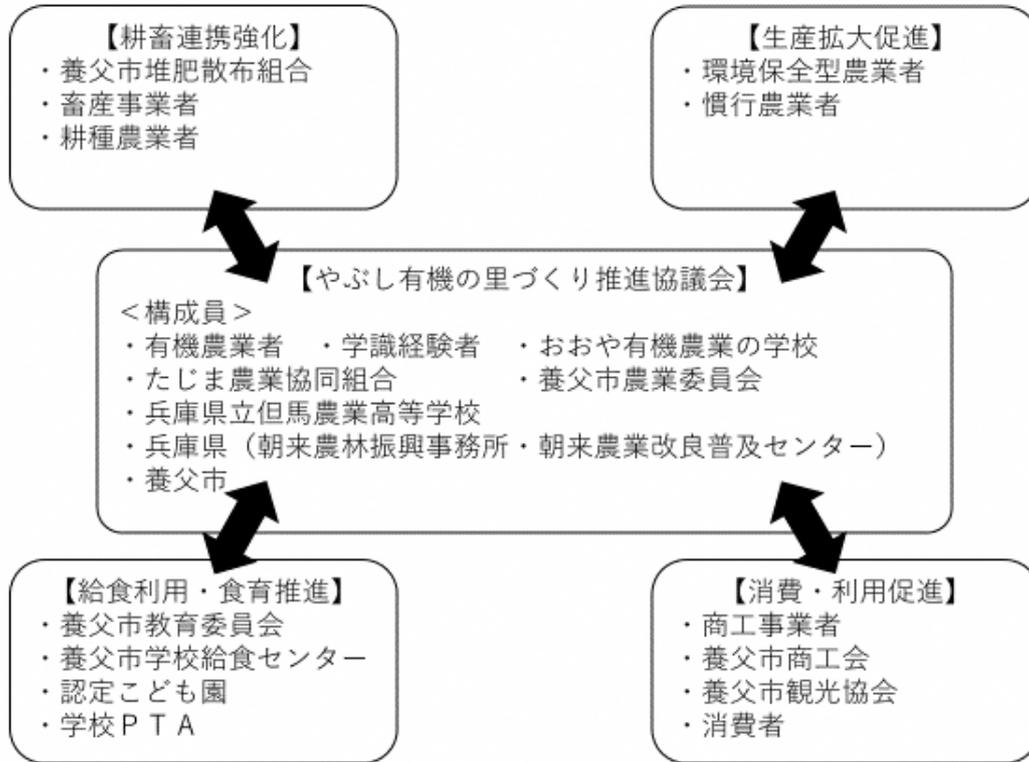
有機農産物を活用した加工品開発や飲食メニューの提供等を推進することで、市民をはじめ観光等で養父市を訪れる人にも有機農業の取組を PR する。

- ・情報発信

生産者、実需者、消費者の取組を市広報誌、ホームページ、ケーブルテレビ、SNS 等を利用し情報発信する。

5. 取組の推進体制

ア 実施体制図



イ 関係者の役割

- ・ 養父市
有機農業実施計画の達成に向けた支援施策の展開及び進捗状況の調査・管理等
養父市有機の郷づくり推進協議会運営の事務
- ・ 学識経験者
生産や消費に関する外部の状況調査
養父市の有機農業に適した品目や栽培方法の調査、研究等
- ・ 有機農業者
養父市における有機農業の実態に関する情報提供
有機農業の取組拡大、普及に係る支援

- ・商工事業者
有機農産物を使用した新たな加工品開発、飲食メニューにおける活用等
- ・たじま農業協同組合
主要農産物や特産農産物の有機化及び慣行農業者の有機転換の促進等
- ・兵庫県（朝来農林振興事務所・朝来農業改良普及センター）
有機農業実施計画の達成に向けた支援施策の展開
有機農業者や有機転換を目指す農業者の経営支援等
- ・関係者全般
有機農業の普及推進に向けた取組を情報発信する

6. 資金計画

別紙のとおり

7. 本事業以外の関連事業の概要

有機農業を中心とした環境負荷低減農業全般を推進するため「人と環境にやさしい農業ビジョン」を策定し、環境に配慮した農業と消費活動を行うまちを目指す。

8. みどりの食料システム法に基づく有機農業の推進方針について

有機野菜産地であるおおや高原が、兵庫県の「環境と調和のとれたみどりの食料システム推進基本計画」の特定区域に設定されており、有機農業の拡大及びブランド化を推進することとなっている。

9. その他（達成状況の評価、取組の周知等）

- ・有機農業実施計画期間中は、有機農業の取組に関する調査を毎年行い、人数や面積を集計する。
- ・有機農業に関するフォーラムを開催し、市民に広く有機農業を学ぶ機会を創出するとともに、有機農業拡大に向けた取組に関する成果を周知する。

6. 資金計画

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
区分	1. 推進体制 ・協議会の運営 1,000千円	1. 推進体制 ・協議会の運営 1,000千円	1. 推進体制 ・協議会の運営 1,000千円	1. 推進体制 ・協議会の運営 1,000千円	1. 推進体制 ・協議会の運営 1,000千円
	2. 生産段階 ・有機JAS認証取得支援 475千円 ・有機転換促進支援 90千円 ・堆肥散布支援 900千円 ・研修会等の開催 300千円	2. 生産段階 ・有機JAS認証取得支援 500千円 ・有機転換促進支援 100千円 ・堆肥散布支援 900千円 ・研修会等の開催 300千円 ・土壌分析支援 500千円	2. 生産段階 ・有機JAS認証取得支援 525千円 ・有機転換促進支援 100千円 ・堆肥散布支援 900千円 ・研修会等の開催 300千円 ・土壌分析支援 500千円	2. 生産段階 ・有機JAS認証取得支援 550千円 ・有機転換促進支援 100千円 ・堆肥散布支援 900千円 ・研修会等の開催 300千円 ・土壌分析支援 500千円	2. 生産段階 ・有機JAS認証取得支援 550千円 ・有機転換促進支援 100千円 ・堆肥散布支援 900千円 ・研修会等の開催 300千円 ・土壌分析支援 500千円
	3. 流通・加工・消費段階 ・販売促進 1,000千円 ・フォーラム開催 400千円	3. 流通・加工・消費段階 ・販売促進 1,000千円 ・フォーラム開催 400千円	3. 流通・加工・消費段階 ・販売促進 1,000千円 ・フォーラム開催 400千円	3. 流通・加工・消費段階 ・販売促進 1,000千円 ・フォーラム開催 400千円	3. 流通・加工・消費段階 ・販売促進 1,000千円 ・フォーラム開催 400千円
合計	4,165千円	4,700千円	4,725千円	4,750千円	4,750千円